

一・ダイスキノキモチ

はい。いつものひとり言です。ペラペラ喋るから黙つて聴いてください。

……もう飽きた、つて顔だな。よしじやあ簡潔に話そう。

人生に物申す。

ただ生きていてはどうにも退屈だ。

変化を望んだり望まなかつたり。

変わつてみたいと思うけど、突然に変わるのは怖いとも感じる。

だつて今は平穏。とりあえず落ち着く場所にいるでしょ。

それが幸せかどうかはさておいて、ほら、たまにはこう、

刺激がほしくなる事もあるだろう。

いつも同じ味付けの料理に、スペイスを加えたくなる時はないか?

ちなみに私は薬味にネギ。味噌汁でも吸い物でも大量の刻みネギを入れる。

フフフ。おいしいよ。毎朝つくつてあげようか。フフフ。

何が言いたいか。結論。……私も飽きちゃつたの。

熱しやすくも冷めやすくもない。汚れないけど輝きもしない人生。

静かな水面に石を投げ入れる行為、そんなお前。

今から電話かけるから。いい? いいよね。だつてお前、私と話したいでしょ。

その為にさ、ここに来たんでしょ。うん。大丈夫。私も話したいからね。

やあ先輩。ご無沙汰。でもない? 分からん。全然分からん。

はい今日も頑張つていきましょう。

先輩の意味不明な戯言に、しぶしぶ付き合つていきましょう。

ん? いや別に。何も嫌じやないけど? 嫌だつたらそもそも話さないし。

先輩とは話すよ。でも私、先輩の事、離さないから。……ぶふッ。

はなすのに、はなさない……クククツ……あ、ああ、ごめん先輩、ちょっと、

はしたなかつたかしら。

いやあの、近頃は些細な事で笑つてしまふんだ。ふしぎしぶ。

そうだ先輩。冬、終わりましたね。長かつたですね。

一年の大半は寒いですよね。寒いの苦手だから、あ、でも、この冬は……、先輩が温かつたから、乗り越えられました。あのね、いつもは冬眠してるの。クマのように……、……笑いどころだぞおい。何だその反応は。まあいいや。しかし、春か。春。そうだ、進級おめでとうございます。留年しなくてよかつたですね。ふふ。あ、私もでした。いつしょ。ところで、春の皿には苦味を盛れ、つて知つてます? 季節は勝手に切り替わるけど、私たち生き物は苦い食べ物を摂取して、身体を冬から起こしてやらねばならんらしい。冬眠の冗談も、あながち間違ひじやないでしょ? うつらうつらと眠たいまま、新しい季節を迎えるたら、万年五月病だよ。ねえ先輩。苦いか分からぬけど、私の事、食べます? ——わっびっくりした。はあ? つてなんだよ、はあ? つて。お前になら私、いいぞ。食べていいぞ。苦いか甘いか確かめてみてください。ひよつとしたら辛いかもしね。あ、辛いのは痛覚らしいですね。……え、なに、震え声でどうしたの。え先輩ええまさか先輩、また変な想像してません? 私、文字通り食べていいって言つただけだぞ。うわー先輩うわーうわー。引くわー。思春期真っ盛りですね、ハハハハ。いや笑います。笑っちゃいますよ、笑いもんです。ハハハハ。おかしー。先輩のえつち。まつたくもう、いくら私でも怒っちゃいますよ。ぶんぶん。うーん。お前はいつも面白い反応をくれるけど、なんかこう、たまにはさ、もつとぐいぐいって来てほしいな。ほら家守つてさ、あんまり声張つたり、驚いたりしないじやないですか。ね。まあ何度か、してやられたけど……。でもあれだぞ。可愛いとか言つたつてな、もう耐性ついたから。先輩は褒め方がワンパターンすぎるから、家守・アブゾーバーによつてすぐに防御を——おほッ?! ……ちょ、お、すつ……すすす、……反則です今のは反則。なし。今のはノーカンとさせていただきます。可愛いは耐性ついたけど、

唐突な「好き」……は、慣れません。ぐぬぬ。

わ、私だつてなあ、お前が好きだぞ。好き好き。大好き。

どうだ参つたか、てめーこのやろう。……きーつ、むかつく。

あそудだ。大好きな先輩。ちょっとね、サプライズがあるんですよ。

……いや教えませんよ。サプライズじゃなくなつちやうでしようが。

と思つたけど、サプライズって言つた時点でサプライズじゃないな。

……さぶらいす。ああ、さぶらいす……。

何度も口にしてたら、ゲシュタルト崩壊してきた。

とにかく楽しみにしてて。先輩きつとびつくりするから。へへへ。

じやあ今日は切れます。ばいばい。

2・アマアイユウワク・前

こんにちは。来ちゃつた。ふふ……アボなし。

もう、化物を見たような顔しないでくださいよ。鳩に豆鉄砲つて奴ですかね。

びつくりした？ したでしょ？ 分かる分かる。

だつて私、先輩から住所聞いてないもん。……でも、知つてたよ？ ふふふ。

あ……でもこれ、昨日言つたサプライズじゃないんです。これは、ね、うん。ん？ ああ、うん。ほら、どうせさ、

先輩つて休日は暇してるでしょ。時間を持て余してるでしょ。

余さないでください。その時間は一片残らず私に費やしてください。なんて。

はは。ていうか先輩、身体大きいね。いつもこうして向かい合う事ないから、なんか、斬新。だけど安心。よし、会心の一撃をくらえ。

……ぎゅつ。ふふふ。

先輩、温かい。先輩、良い匂い。おいしそうな匂い。……うそそそ冗談。

あ……、もしかして……迷惑だったかな。私、迷惑な事しちゃつたかな。

急に押し掛けるなんて真似は、……でも私、先輩に会いたかったの。

……へ、あ、何か、嬉しそうですね。よかつた。私も嬉しいです。エヘ。

先輩、今ひとりですか。おお、そうですか。ふんふん。

上がつていいですか。

先輩の家、しつちやかめつちやかに荒らしたいな。

え、いいの。やつた。ありがとうございます。廢墟にする勢いで上がります。

なあにビビつてんですか。乱暴な事しませんよ。私そういうの嫌いだから。

でもね、私、先輩になら乱暴されても嬉しいよ。……顔を赤くするなアホ。

こつちまで恥ずかしくなつてくるだろ。

それじや、お邪魔します。じやまじやまおじやま。

ほーう、ほーう。ふんふん。へー、ここで生活してるの。ふーん。

何か、特徴がないね。退屈でつまらん部屋。まるで先輩みたい。……嘘だつて。

スー……ハー……。……あ……先輩の匂い。

部屋中に先輩の匂い充满してるんだけど。どういう事なのこれは。

スー……ハー……スー……ハー……。

ねえたぶん私相当おかしくなつちやいそうなんだけイイ？（超早口）

どうおかしくなるかは、あえて言いませんが。

……分かりました。じやあ、おかしくなつてきたところで、サプライズ。

はいこれ。

……なつて、バレンタイン。です。……ハイ。……何だよ。

何がおかしいんだよ、おい。あ、時期が遅いとか思つてるでしょ。

それは色々都合があるんです。海より深い事情があるんです。

……それとも形か？ ハート型は変だつたか？

なあ、おいつ。私、こういうの初めて、だから、あの。

ええ、ちょ、本当、ごめんなさい、こんなのやつぱり、ダメ、かな……。

……は？ えなに、え、からかつたの？ 私を？ 家守を？

……ぐぬぬぬぬぬぬ。

サプライズで、何で私がびつくりしてるんだよ。

全然予想外だった、うわ、もう、恥ずかし。つらい。

なにお前、いつもの仕返しというわけですか。

……うん、焦つた。超焦つたよマジで。私が、私なんかがチョコ手作りして、それを好きなひとにあげるのが、そんなに滑稽だつたのかなつて。

でもよかつた。喜んでくれた。じゃあ私も喜ぶか。……ヤツタアー！

あ、テンション上がってきた。よし先輩、お茶を出してもらおうか。

私どこに座ればいい？ ここ？ よしもうここから動かん。ずっとここにいよ。

何ばーっとしての。そんなに見つめないでください。照れます。

ああダメ、やっぱりじつとしてらんない。むずむずそわそわ。

恥ずかしいから、部屋のなか探索しよっと。えへへ、根掘り葉掘り。

先輩の事だ。どうせいかがわしいものでも隠してるんだろう。

しかも今日は、突撃昼ご飯の時間だったからな。隠す余裕すらなかつたはず。

本棚、うんうん、漫画本がいっぱいありますね。ほお、こういうの読むの。

小説もあるね。好印象。好きな作家さんとか、いらっしゃる？ ……ほう。

家守は、寺山修司。ふふ、私の部屋ね、寺山修司みたいになつてるんだ。

あのひとは、お風呂場の浴槽が本で溢れるくらいだったそうです。尊敬。

いっそ真似してみようかしら。そしたらお風呂入れなくなるから、

先輩の家を借りていい？ ……一緒にに入る？ 洗いつこしちやう？（無聲音）

……おおお、ドードー、ドードー、落ち着いて。落ち着きなさい。ね。

そんな事しませんって。だいたい浴槽を使えなくしちやつたら、

父親に怒られてしまうから、……そうです、できません。

……ん、まあ、うん、父親ね。はい。

ああ、そう言えば、ひどい事とか、あんまり言われなくなつたなあ。

アルコールが入ると、ちょっと口調が荒くなるけど、そのときは近づかないし。

まあ、男手ひとつでさ、私をここまで……生き永らえさせてくれたから。

ただ憎いってだけじゃなくて、感謝もしてる。

でもさ、そういう考え方つて、お前とこうして話し合うまではね、

まったくしなかつた。いや、できなかつたんだよね。

先輩。先輩。お前のおかげで、だいぶ人間らしい思考回路になつてきたよ。

人間らしいから、先輩を好きになつたし。色々教えてくれてありがとう。

もう一度言うね、ありがとう。これ、心の底から言つてます。

……えへ。あ、チヨコ、そうだよ、溶けちゃう前に食べましょ……一緒に。

これね、生チヨコなんだよ。ほろ苦さと甘さのダブルパンチ。ふふふ。

あ、家守さ、前からしてみたかったんだ。ほら、あれ、あーんつてするやつ。もちろんしてくれるよね。彼氏だもんね。恋人だもんね。……よし。

……はい、あーん♪ ……おいしい？ 私の生チヨコ、おいしい？

ほんとつ？ やつた、やつた。えへへ、ありがとう。

箱もハートで、チヨコもハートで、私のハートもハートだから、

この部屋、ハートでいっぱいですね。胸やけしそう。うう、クルシイ。

……ん？ んん、もう、先輩の欲しがりさん。……好きです。これでいい？

ひあツ。……ちよつ、せんぱ、お、おおうつ、おおあつ、

ほ、ほつほーう、今度は先輩が、さ、ささ、サプライズってわけですかあ。

い、いいやあ？ 別にい？ 驚いてないですよ？ マジですよ？

とりあえず離して。いつたん。お願ひします。

……ふう。……先輩……今、私の中の何かが崩壊しました。

サプライズにサプライズを返した先輩。

じゃあ、チヨコの分も返してもらわないといけませんね。……ね？

な、の、で。……チヨコは食べるものです。ハグにハグを返したなら、

今度は私が食べる番。……お前の事、いただきます。ふふふふふふ。

3. アマアイユウワク・後

……なーんてな。

ダメです先輩。いや、いいんですけど、ダメです。

真昼間ですよ。そういうのよくない。だから、ほら、手をつなぐ程度にして。

手、ぎゅ。ぎゅぎゅ。思つた事言つていい？ うん。先輩の手、アツチツチ。どうしてこんなに手汗かいてるの。ねえ緊張してるの？ ふふふふ。

……あれ？ あれ、あれれ？ 何だろ、この感触。なんか違う。なんか。

ちょっと、ちょっと静かに。黙つて。……、……ええ……？ これつて……。

えつちょっと先輩、えつえつえつ、もしかして、もしかしてさ、お前さ、私以外の女の子と、手……繋いだ？ ねえこれ繋いだよね絶対そうだよね。

……分かるよ？ 分かっちゃうんですよ先輩。ねえ正直に言つてねほらほら、

イエスかノーカ二者択一。…………へえ？

あーあーあーあーあーあーあーあー触るな。手を離せ。…………はああッ……。やつちやつたね先輩。やつちやつたね先輩。そなんだふうんへえそなんだ。あららららら。先輩、……私、ずっと信じてたのに。

あー、先輩、あー、私がいるのに、あー、私じゃダメなんだ。そなんだ。うわーうわうわうわうわ、あー、殺そう。殺してやる。殺し尽くす。

妖ども、集いたまえ。ここへこい。なぶり殺しにしろ。……そなだ。先輩、たぶん見えないでしようけど、今お前は、囮まれてる。

こいつらは、ウカミといつてな。

低級の妖だが、ひとの骨を折る程度の事は出来る。

殺さない程度に、四肢をぐにゃぐにゃになるまでへし折つたりな。

でも安心して。こいつらは私の言う事を聞く。お前に危害は加えないよ。

血祭りに上げるのは、お前をたぶらかした馬鹿女だ。

それに、とどめは、ひとである私が差すからね。家守の慈悲だよ。

まあ、そのあとは、先輩の目をちょこっとといじくり回して、

私しか見えないようにしてあげる。でないとまた、お前を騙す女が現れるよ。

さあ先輩。教えて。誰がこの素敵な手を奪い取ったの。ねえ誰。ねえ。

……なに、言い訳なんて聞きたくない。

お前はやさしいから、きっとその女の肩を持つんだろ。知ってる知ってる。

私がいちばんよく知ってる。でもそのやさしさを受けていいのは、

私だけなんだぞ。なあ、そうだよな。なあ、……なあッ！

……へ。……うん、……うん。

えと、そういうもの……？ ……ああ、その、私、先輩しか知らないから。

ふうん、卒業式で……握手とか、するんだ。

そう言えば、卒業式……あつたね。つまり、世話になつた先輩としたつて事？

……へえ。ちょっと、頭貸せ。ほら、こう。私の額とくつけて。

…………うん、……ああ、これ、たまに私も見る顔だ。名前は知らんけど……。嘘じや、ないみたいだな。……、……うう。

あ、ご、ご……ごめん。ごめんなさい。早とちり……しちやつた。

いやその、あの、ああ、ああ、ちが、そなつもりじや、ああ、ああ。

先輩は、先輩……は、私の、大切で、一番大切な存在だから、えつと、不穏分子は排除しないと、ていうか、あ、違うの。

えつと、怖がらせるつもりなくて。私、あの、逆に私が怖くて、

失いたくなくて、奪われたくないで、ああ、なにが言いたいんだ、私？

つまり、家守は先輩が好きで、家守だけのものにしたくて、でもそれって、つまり、つまつま、家守は私の都合しか考えてなくて、ああでもそれじや私、ただの自己中……なんて……なんて嫌な奴だツ——ふあツ！？

あ……せんぱ、い……？ なんで、どうして手を、握るんですか。

……私が怖くないのか？ そんな平然と、なんで、笑つていられるんだよ。

……怒らないの？ 怒つてないの？ 怒つていいんだよ？

私、先輩になら何されても嬉しいって、言つたでしょ。だから、怒つていいよ。

そういうのはダメ、ダメダメダメツ。私、泣いちゃう。おもししちやうから。

しかし、……おい、今ここに、先輩の意思はあるのか？

なんでき、ねえ、もしかして先輩、私の事……。

お前、あれだぞ。お前はいつだつてやさしいが、でも、

私は、やさしくさればいいってものじやない。怒る時は、怒つてほしいよ。

私、怒られても仕方ない事しちやつた。先輩の、尊敬してるひと、

殺そうとしてた。今だつて、先輩の周りには、いるんだよ。妖が。

こいつらに慈悲はない。私が命令を下せば、すぐにそいつを殺しにいくんだ。

まさか、信じてないつてわけでもあるまいよ。私がそういう、そういうさ、

力を持つてつていうのは、何となくでも分かつてたでしょ。

恐ろしい状況だつていうのに、それでも先輩は笑つて、私を許そうとしてる。

そななの、ダメだよ。いや、ダメとかそういうの、

私が決める事じやないんだけど。でも、そなな事されたらさ、

私、わけ分かんなくなつちやう。何が良くて何がダメで、先輩が分からぬ。

せつからく、どんどん分かつてきたのに。

無条件のやさしさなんて、ひとでも妖でも、ないよ。一体お前は何なの。

……ああ……。

すみません……帰ります。お邪魔しました。……止めないでください。

ちょっと、考えさせて。先輩との付き合い方……分からなくなってきた。

止めるな、帰らせろ。……ああ。すみませんね、先輩。……さよなら……。

4. ヒュードロドロ・デート・前日譚

もしもし。家守依知。……お前は、誰だっけ。

なんとなくね、分かる。お前は、私と話すために、会いに来てくれたひと。たぶん、私と住んでる世界は違って、いわゆる現実に生きてるひと。

私も現実に生きてるよ。私にとつては、ここが現実だもの。でも、家守依知は、境界線が曖昧だから、どつちにも生きてるんだ。

私と話す時のお前も、曖昧な存在なの。不思議な感覚。自分はどうだっけ、みたいなね、そんな感情が心地好くて、だからこそ私と話すんだろう。

家守もそうだよ。……ねえ。……好きだよ。

お前は、お前の人生の時間を、私の声を聴くために使つてるんだ。

そんなお前が、好きだ。でも、嫌いだ。私なんかに、もつたいないって思う。二も、三も、関係ないな。こうして通じ合えるなら、生き場所なんてものは。四になれば、本当に会えるかもな。ふふ。いや、何でもない。

ああ、私、先輩の事、再確認できた。やあ、先輩。こんばんは。

……すまなかつた。私が勝手に勘違いして、ぎやーぎやー喚いて、

お前を不快にさせてしまつたな。……お前がやさしい理由、分かつたよ。

もう大丈夫。大丈夫だけど、お詫びと言つちゃなんだが、先輩、またデートしましょ。

ほら、この前は、私の提案でさ、喫茶店なんかでコーヒー二杯飲んで。

くそつまらん映画を見て、イチャイチャしまくつたじやないですか。

なので、是非とも、また行きましょう。

今回は先輩の行きたいところが良いです。何かご提案くださいませ。

あ、できるなら、おもしろい場所がいいな。わくわくスポット、お願ひします。

……ふふ。急に言われても困っちゃう？ 分かる分かる。

明日また、学校で会いましょう。その時までお返事ください。

……先輩。……その、……ありがと。大好き。

5. ヒュードロドロ・デート

おー、どーもどーも先輩。大丈夫、今来たところ。二時間くらい前かな。……二時間前って、今とは言わないの？ でもなんか、一瞬だつたよ。

だつてさ、いても立つてもいられなかつたんだもの。

ああ、いいのいいの。本当。私たぶん、待つより待たせる方が苦手。

先輩を待たせるなんて、動悸と目眩と吐血の欲張りセット。イコール、死。

ていうか先輩、目的地すら聞いてないんですけど。どこに行くの。

駅前の待ち合せつて事は、隣町とかですか。遠征しちゃいますか。

……えー、なんで教えてくれないの。またサプライズですか。

すっかり流行つちゃいましたね。でもまあ、嫌いじやないよ。

先輩つてば、会うたびに新しい何かをくれたりするから、楽しい。

それじや、行きましょう。ほら、腕、組んでください。

先輩の体温、感じさせてください。ぎゅ、です。ぎゅ。ふふふ。

なに照れてるんだよ。ほれほれ、もつと照れますか。ほれほれ。

え、なに。……さあ、何の事かな。いや別に、当ててないです。

当たつちやうんです。仕方ないでしょ、こういう身体つきなんだから。

はあ、もう、先輩つて本当ムツツリですよね。知つてる知つてる。

あ、なにそんな急いでるんですか、もう。照れ隠しますか、それ。

……ああ、電車、着ちやいますね。なるほどね。ここは負けておきます。

さあさあ、どこに連れていかれちやうんだろう。刹那的に楽しみだ。

ちょっとさ、移動時間どんだけ長いんですか。

もうなんか、全然私達の町と違うじゃないですか。風景が違いますよ。

電車だけじゃなくて、バスまで使うとは思わなかつたよ。

ここ、どこですか？

……へえ、神奈川なんだ。いやいやいや、県を跨いじやつてるじゃん。

なんでわざわざ……今どこに向かって歩いてんですか、これは。

……はい？ え、ちょっと待つて。え、え、え、マジですか。マジで？

いや、いやいやいや、言いたい事たくさんあるけど。まずこれ言わせて。

なんでデート先が心靈スポットなんだよ！ マジでワケワカラ。

私、わくわくスポットって言つたよね？ 全然わくわくしないよこれ。

ていうか、なんか前にも、そんな話をしませんでしたつけ。あれ本気だったの？

え、なに、そういう趣味あるん？ 先輩オカルトマニア？

へ、へえー、まあ、い、いいんじやないかな。はは、ははは。

……はッ？！ ベつに、なにも？ こつここ、怖いわけないじやろ。

じやろッ？ ちがう、怖いわけないだろ。だつてほら私、普段からさ、

変なものたくさん見えてんだぞ。そんな私が、なんで怖がるつちゅーねん。

アホか。先輩アホか。ありえへんつて。あああ、母国語が。いや方言が。

あいや私、関西出身じやないです。ていうか、そんなのどうでもいい。

えと、えと、あああ。い、いいか先輩、心靈スポットつてのはな、

遊びで行くところじやないんだ。怨念がおんねん。ほら、地元住民だつている。

騒いだり荒らしたり、彼らは迷惑を被つてるんだ。

ひとの怒りと、怨靈の祟りを同時に受けちゃうぞ。

あ？ ああ？ そ、そうなんだ。まあ、橋を渡る程度なら別に、うん、いいか。

うわ、ああ、ここ……？ これが、噂の……「虹の大橋」。

み、湖は、奇麗ですね。宮ヶ瀬湖、ですね。青い。広い。

ひええ。橋の方は……真つ昼間でも、なんかやばいな。変な感じするかも。

……え、いや、見えないです。何も見えない。私、妖は見えるけど、ゆ、ゆゆ、

幽靈は見えないんです。あいつらは、妖とは別物なんだよ。

あああ、何だろ、妖が一匹もいない。普段はわざらわしいくらい見えるのに、

どうしてこんな時にはいないんだ。逆に寂しいじやないか、くそ。

せ、先輩、手を離すなよ。離したら死ぬからな、……いやお前が。

私は大丈夫だけど、先輩は私が守つてないと、死ぬから。バラバラになるよ。

だから、ぜツツツみたいに離すな、いいか。よ、よし。

うう……は、橋に、虹が描かれてますね。だから虹の大橋なんだね。

あー、あー、やばい、やばみ。わ、私、心靈スポットは初めてなんだ。

きよ、今日は、天気がいいな？ 車も結構、通るな？ はは、明るい！

なんて素敵なスポットなんだ。ははは。たーのしー！

いひえツ！？ ど、どどどどうした、先輩ツ。死んだか？ 死んだのか？

急にほっぺた触るなツ、おもらしたらどうするんだ！ この！

……ほあツ。え、こ、これ、なに。……ほ、ほわいとでー？ つて？

あ、ああ、あれか。チヨコのお返しか。な、なるほど。いやなるほどじやない。

なんでこのタイミングなの。……まあ、私も妙なタイミングで渡したけどさ。

サプライズにサプライズを重ねるとは……お前もなかなかしつこいな。

……ありがとうございます。少しだけ落ち着きました。

なんか、世の中のカップルが、どんな時にどんな事をしてるのが知らんけど、

少なくとも私達、ふつうじやないです。端から見れば、何やつてんのつて。

デートで心靈スポット行つて、そこでホワイトデーのお菓子もらうとか。

先輩。前から言おうと思ってたけど、お前つて、

私は負けないくらい、だいぶおかしい奴だつて言われてそうだよな。

私は好きになつた時点で、気づくべきだつたね。遅すぎたよ。

私は狂つてなんかいなつて、家守がいつか言つてただろ。

ここに来て、私、その考え方を改め始めるっぽいです。

狂つてもいいんじやないかつて、そう思つてる自分がいたりするんだ。

だつて先輩は、私が狂つていようがいなからうが、好きなんでしょ。

じゃあもう、そこは気にしない。……うん、私も先輩が好きだ。

こんなハチャメチャなデートで、それを気づかせてくれたのかな。

もしくは、先輩なりに考えた真面目なデートだつたのかな。いや、答えるな。

答えは要らないよ。どつちにしたつて私は、嬉しいもの。

ふう。生まれも育ちも、良かつたなんて言えない日々だつたけど、

先輩、お前のおかげで、やっぱり私は幸せなんだ。幸せつて言える。言えるよ。

……先輩、大好き……。

……あ、でも、早くここから離れたいです。もう正直に言います。超怖い。

ただ、お前の事は絶対に離さんぞ。死の果てまでも一緒にです。

絶対、絶対、絶対……逃がさないから……♪

6. モウノガレラレナイ

……、あ……、……。

……お父さん、おかえりなさい。

あの、……今日も、仕事、お疲れ様。ご飯、できるよ。……ん……。

こちらこそ、その、いつもありがとう。

……へッ。あ、ああ、デート、楽しかった。う、うん。なんかね、先輩、心靈スポットでホワイトデー、渡してきた。……ふふ、おかしいでしょ。

……ねえ、お父さん。私、ね、あの、今まではずつと、生まってきた事、正直、嫌だった。皆が、私に指を差すから、それが嫌だったんだ。

でも、最近は楽しい。先輩と出会ってから、色々な事を知つて、色々な事を思つて、想つて、……ここまで、そして今も面倒見てくれる、お父さんの存在を、なんだろ、その、ありがとうって。

……ん……私、お父さんの子に生まれて、よかつた。

私、これからもね、頑張つて生き続けるから。

いつかこの恩を、お父さんに返したいから。

あ。あのさ、お酒……飲んでもいいけど、……ちょっとは控えよう?.

……、……うん!

あー先輩。あー好き。あーあー。好き。好きが好きのせいで好きすぎる。

も……たまらん。ああ、もう、なにもう、ああもう、好き。

先輩のおかげで、何もかも前向き。まえまえむきむき。ふつふふふ。

悲しみひとつも残さずに、笑つて生きていたい。

これは、誰の言葉だったつけ。

きっと、たくさんのひとを救つてる誰かの言葉だ。

私も、先輩に、お父さんに、笑つて生きていてほしいから。

この命が終わるその時まで、私は、言葉を吐き続けよう。
それが、家守依知の、生まれた理由で……生きる理由。
なあ?

発狂少女に告白したら、もう逃れられない。

そうだろ? 聴いてるお前に言つてるんだ。お前だぞ、お前。

ありがとう。これまで、これから、家守依知は、お前のそばに居続ける。

辛い時も、悲しい時も、私はお前を見るから。ひとりじゃないから。

ひとりじゃないを教えてくれたお前なら、分かってくれるだろ。

今度は、私が教える番だよな。

ねえ、……抱きしめてもいいか?

(終)